



第23回

●2019年度 国際交流事業 ●第8回 子ども支援セミナー ●令和元年度 教育懇談会 ●高等教育の修学支援新制度について



contents

2019年度 国際交流事業	01
第8回 子ども支援セミナー	02
第23回 汐風祭	03
令和元年度 教育懇談会	05
ホームカミングデー開催報告	05
古本掘り出し市	05
夏休み宿題教室開催報告	06
市民のタペアンテナショップ出店報告	06
SSW教育課程 親子交流行事	07
講義紹介	08
社会福祉学部3年次生 就職支援プログラム	09
ひとくちメモ	09
編集後記	09
高等教育の修学支援新制度について	10

2019年度 国際交流事業

(カナダ・バンクーバー研修・オックスブリッジ英語サマーキャンプ)



9月8日(日)から17日(火)の日程で、学部生5名、引率教員2名の計7名が参加し、カナダ・バンクーバーにて海外研修が実施されました。

研修内容は、現地での簡単な英語研修に始まり、高齢者福祉施設及び医療機関の視察、カナダの教育システムのレクチャーを受け、プレススクールやデイケア(日本でいう保育所のような施設)でのボランティア活動と盛りだくさんで、日本と

カナダの教育システムや医療現場の仕組みの違いを知り、ボランティア活動を通して実際に経験するという非常に密度の高いプログラムでした。また、この研修の大きな特徴は、研修期間中の滞在はすべてホームステイであることでした。ホストファミリーと英語でのコミュニケーションを積極的に行うことで英語を「聞く(理解すること)」「話す(伝えること)」に慣れ、英語でのコミュニケーション能力を高めること、英語でのコミュニケーションに対して興味関心を高めてもらうことも今回の研修の目的の一つでした。



また、7月21日(日)から8月3日(土)の日程で、兵庫県国際交流協会の実施する「オックスブリッジ英語サマーキャンプ2019」に初めて参加しました。「オックスブリッジ英語サマーキャンプ」とはイギリスのオックスフォード大学とケンブリッジ大学の学生が兵庫県内の高校や大学で英会話の講義を行うとともに各学校の学生が行う様々なイベントを通じて交流を図る事業で、本学にはケン

ブリッジ大学2年次生の学生が来学しました。英会話の講義に加え、茶道体験や剣道体験などを通して交流を図りました。

福祉・教育・医療の分野でも今後ますます国際化が進むことが予想されることから、学生時代に様々な経験を通して国際感覚を身につけてほしいと思います。



第8回

子ども支援セミナー



8月23日(金)に第8回子ども支援セミナーが開催されました。このセミナーは本学と兵庫県立赤穂特別支援学校、赤穂市教育委員会との共催事業として、また、兵庫県社会福祉事業団赤穂精華園の協力のもと毎年この時期に基調講演と3つの分科会の2部構成で開催されています。

基調講演では、福山市立大学教育学部准教授で日本子ども虐待防止学会理事を務められている野口啓示(のぐちけいじ)氏を講師にお招きし、「児童虐待と家族支援」親子関係のバッドサイクルからグッドサイクルへ」と題して講演をいただきました。特に今年度は児童虐待死の事件が多発して枚挙の暇がありません。誰もが児童虐待はいけないことだと理解しながら、実際には児童虐待をしてしまう保護者がいます。昨年度15万件を超えてしまった児童虐待について、なぜ、いけないことだと理解しているながら児童虐待をしてしまうのか、親子関係に注目し、児童虐待が起こるメカニズムについてご紹介いただき、親子関係が難しくなった結果として児童虐待が起こるサイクルを解説するとともに、予防・防止に向けた親子関係の在り方について聴講者とともに考える講演となりました。

また、2号館1Fのホールにおいて、社会福祉学部の八木修司教授、高田豊司講師のゼミ生と本学のスクール(学校)ソーシャルワーカー教育課程の学

生による活動報告の展示も行いました。ご来場いただいた皆様から「学生の活動の様子を知ることができた」「様々な取り組みの様子がよく伝わった」などの感想をいただきました。

午後からは第1から第3までの分科会に分かれての研修が行われました。第1分科会は児童分野の第4回卒業生フォローアップ研修も兼ねた児童養護施設の高機能化時代を見すえたアドミニレーションの在り方・多職種連携・協働を目指して、第2分科会は「子ども」の「こころ」に関する課題に学校園がどのように取り組むか、「チーム学校」と専門機関との連携、第3分科会は「発達に特性のある乳幼児への支援」今とこれから「それぞれのテーマについて、事例発表や意見交換、質疑応答などが行われ、学校、幼稚園などの教育機関関係者や保育所、児童福祉施設にお勤めの方から保護者、行政の関係者まで幅広くご参加いただきました。まだまだ残暑厳しい中、ご参加いただきました皆様ありがとうございました。

今年度で8回目を迎えたこのセミナーですが、来年度も多くの皆様にご参加いただける有意義なセミナーにし、地域の子どもの支援の情報発信源としてこの先10回、20回と回を重ねていければと考えておりますので、今後ともよろしく願っています。





今年度の大学祭は10月5日(土)・6日(日)の2日間で行われました。今年は、令和に改元されて初の大学ということもあり「REBORN～新時代の幕開け～」をテーマに様々なイベントを企画しました。体育館のメインステージや円形広場の模擬店に加え、学生ボランティアセンターの活動報告や教育学部の学生による絵本の読み聞かせ発表会、メインステージでの企画の際に手話通訳を付けるなど例年以上に本学の学びの魅力を伝える要素を盛り込みました。また、昨年度から屋内での実施に変更したフリーマーケットは今年も多くの方にご来店いただき、多くのお客様にショッピングを楽しんでいただきました。

今年度の大学祭実行委員会は150名を超える学生が参加し、学内の関連部署や学外の協力機関との諸調整や協賛広告の営業活動、各イベントへの出演交渉やアーティスト、お笑い芸人のブックキング、パンフレットや模擬店の看板作成など、それぞれの部門で意見を出し合い工夫しながら準備を進めました。

ステージ以外でも毎年恒例となっている本学吹奏楽団による演奏会「しおさいコンサート」を開催し、会場となった大教室が満席になるほどの大盛況で、木原教育学部准教授の指揮のもと団員たちの奏でる美しい音色で観客を魅了しました。また、茶道部によるお茶室では、大人から子どもまで幅広い年代の方にお茶を振る舞い、日本の伝統文化に触れていただきました。また、学生ボランティアセンターの学生たちによる活動報告展示では、地域の子どもたちに大人気のクリスマスイベントの様子や赤穂義士祭の際の清掃ボランティア活動の様子など様々な取り組みを多くの方に知っていただきました。

今年は2日間とも清々しい秋晴れもの開催することができ、昨年を大きく上回る約2,800人の方にご来場いただきました。ご来場いただきました皆様、開催にあたりご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。



令和元年度大学祭「第23回汐風祭」

「REBORN～新時代の幕開け～」

10.5sat - 6Sun

毎年10月に行われ、今年で23回目を迎えた大学祭「汐風祭」。人気アーティストによるライブやお笑い芸人によるお笑いライブ、地域の方々が出店するフリーマーケットに模擬店、ステージでの学生企画など様々なイベントが盛りだくさんの2日間。このほかにも吹奏楽団によるコンサートや茶道部によるお茶室などもあり、今年も多くの方にご来場いただきました。



第23回

汐風祭

夏休み宿題教室 開催報告

毎年恒例となっている夏休み宿題教室も今年で11回目となりました。

8月2日・5日に赤穂市(本学)、8月6日・7日に上郡町(県民交流広場「菊森さんの家」、上郡町生涯学習センター)、8月4日に備前市(備前市市民センター)の3会場で計5日間開催しました。延べ254名の小学生が参加し、会場は子どもたちの元気な声で溢れました。学生ボランティアスタッフは延べ66名、赤穂西中学校からも2年生の方14名のボランティア参加があり、小学生が各々持参した宿題を一緒に考えやる気が続くよう応援しました。

上郡会場では、今年も食育教室を開催。上郡町いずみ会の方々にご指導いただきながら、同町特産モロヘイヤ入りのチャーハン、サラダ、野菜たっぷりスープなどを作りました。また、お昼休みには地元の読み聞かせサークルによる絵本の朗読会が開かれ、様々な世代が交流する場にもなりました。

今後も、地域に開かれた大学として、子どもたちへの学習支援や交流事業を継続し、大学としての役割をはたしていきたいと考えています。



「市民のタベ」福祉アンテナショップ 出店報告

附属地域センターでは、8月31日(土)赤穂海浜公園で開催された「第49回市民のタベ」にて、福祉アンテナショップを出店しました。

このアンテナショップは、施設利用者の方が作った授産品の販売を通じて、就労支援や障がいのある人の福祉について啓発することを目的としています。みのり赤穂、フロンティア、わかば園、赤穂精華園の授産品協力があり、学生スタッフの元気な呼びかけと笑顔でお店を盛り上げ、今年も多くの方に商品をご購入いただきました。



ホームカミングデー 開催報告

10月5日(土)・6日(日)
関西福祉大学校友会ホームカミングデーを開催しました。

今年のイベントとして、本学卒業生によります講演会『なぜあの人は「老後のお金」に困らないのか?』は、卒業生、在学生保護者、教職員40名の参加がありました。これからのご自分の事、ご子女のご心配をされる保護者の方からの質問も多くされていました。

また、そのほかにワンコインワークショップ(ハーバリウム・レジン)・「恩師との自由面談」を開催し、喫茶タイムでは懐かしい友人との再会で楽しい時間となりました。



古本掘り出し市 with赤穂高等学校マルチメディア(図書)部 (協力:赤穂警察署・赤穂市民病院)

今年も10月5日(土)、6日(日)の汐風祭と同時開催で、本学図書館と兵庫県立赤穂高等学校マルチメディア(図書)部、赤穂警察署・赤穂市民病院の協力による古本市を開催しました。

赤穂高校マルチメディア(図書)部員21名、本学学生7名のボランティアが参加し、この日のために提供された本や雑誌、保存期間を過ぎた図書館資料など2,253点を準備して2日間で834点を販売。収益金45,100円的全額を全国学校図書館協議会※1へ、また、本の一部(935点)を「ホンデリング」※2へ寄付することができました。

皆様のご厚意に感謝いたします。

※1「大規模災害により被災した学校図書館への支援」大規模な自然災害・人為的災害によって学校図書館の蔵書や施設・設備に著しい被害を受けた日本国内の地域又は特定の学校に対して、学校図書館機能復興への支援を図るために公益社団法人全国学校図書館協議会が行っている事業

※2「ホンデリング〜本でひろがる支援の輪〜」認定特定非営利活動法人全国被害者支援ネットワークが行っている、不要になった本を犯罪被害にあった方々への支援活動に活用する取り組み



令和元年度 教育懇談会

毎年大学祭と同時開催しております教育懇談会を今年も10月5日(土)に開催させていただきました。

今年の教育懇談会も例年同様の全体会、学部学科別懇談会、個別面談会に加え、保護者対象オープンオフィスアワーの4部構成で近隣県の会員の方だけでなく東京や神奈川、熊本の会員の方にも足を運んでいただきました。

全体会では、薮内教育後援会長、加藤学長のあいさつがあり、その後の学部学科別懇談会では、各学部学科の概要説明や進路・就職状況、国家試験の取り組み状況や実習指導などについて各学部学科の担当教員より説明させていただきました。

そして、毎年ご好評をいただいております在学生による学生生活や国家試験・採用試験に向けての勉強、部活・サークル活動などについての発表もありました。

個別面談では、学生の普段の大学での様子や学習状況などを担当教員から直接聞くことができる機会として多くの会員の皆様にご参加いただきました。

ご参加いただいた会員の皆様からは「国家試験や採用試験の取り組みが充実していることがわかった」「学生一人ひとりに対して丁寧な対応でありがたい」などのお声を多くいただきました。



講義紹介

基礎看護技術Ⅱ

(看護学部)

看護学部1年次後期科目「基礎看護技術Ⅱ」をご紹介します。この授業は主に「診療の補助に関する技術」が中心であり、医師が行う診療の介助や、対象者への診療時の看護について、技術の原理原則を踏まえて理解します。

指示されたことを実践するだけでなく、自分の判断ができ、意見が言える看護師となる基本を学習します。

写真は、「創傷処置」と「包帯の巻き方」実践の様子です。学生さんたちは試行錯誤しながら積極的に取り組んでいました。これからどんどん技術を身につけていただきたいと思います。



創傷処置



包帯の巻き方

運動の科学

(社会福祉学部・教育学部児童教育学科・看護学部共通)

社会福祉学部、教育学部児童教育学科、看護学部の共通科目として開講されている「運動の科学」をご紹介します。講義2回目から5回目まではバドミントンを通じての知識・技能の習得と実践という内容で、実技ではダブルスの熱戦が繰り広げられていました。この講義を通してスポーツに関する正しい知識と技能を習得し、スポーツ実践は健康で豊かな人生を送るために重要な一つであることを学生さんたちに体感してもらえればと思います。

女子バレーボール部の水野秀一監督が指導教員を務めており、11回目以降は専門のバレーボールが扱われる予定です。どんな講義が展開されるか今から楽しみです。



SSW教育課程 親子交流行事

9月22日(日)に毎年恒例となっているスクール(学校)ソーシャルワーカー教育課程の学生による地域親子交流行事が行われました。

このイベントは、SSW実習教育の一環として、赤穂市内の小学校に通う児童とその兄弟姉妹や保護者を対象として親子や兄弟姉妹の絆が深まる1日になるよう企画されました。

今年は「ピースを集めてたどりつけ! 令和大捜査線!」と題して、輪投げや段ボールフリスビー、射的など7つのゲームとフォトフレームと鍋敷きの2つの物づくりを行い、合計9つのピースを集めながらゴールを目指すという内容で、ゲーム内容な物づくりを通して参加してくれた地域の小学生やその保護者の皆様に楽しく交流していただきました。



企画を担当した学生は、講義や学内外での実習を通して得た知識や経験を活かし、子どもやその家族を対象とした個別の支援実践だけでなく、イベントの企画立案を通して、「目的」を明確にし、関係する各部署や他の機関との諸調整を経験し、実際に社会に出てからの「仕事」に応用できる貴重な経験をすることができました。



当日は27家族・小学生41名の参加があり、「楽しかった」「来年も参加したい」「普段より子どもとゆっくり向き合うことができた」など好評をいただき、事故やトラブルもなく、盛況のうちにイベントを終えることができました。



高等教育の修学支援新制度について

9月20日、本学は令和2年度より実施される高等教育の修学支援新制度の対象機関として文部科学大臣より認定を受けました。

高等教育の修学支援新制度とは、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、一定の要件を満たすことの確認を受けた高等教育機関の学部学生を対象とした授業料の減免や日本学生支援機構による給付型奨学金の支給が行われるもので、減免・給付額については、表1のとおりです。

また、修学支援新制度の対象者となるためには、家計基準(表2)及び学力基準(表3)の両方を満たす必要があります。

なお、在学生の予約採用は11月25日(月)に締め切りました。対象者で手続きができていない場合は、2020年4月上旬に在学採用説明会の実施を予定しております。

高等教育の修学支援新制度に関するお問い合わせは、学生支援課(0791-46-2740)までお願いいたします。学生支援課の対応可能時間は、8:50～17:50(13:10～14:10除く平日のみ)となります。予めご了承ください。

表1.減免・給付額

区分	減免額	給付額	
		自宅通学	自宅外通学
第Ⅰ区分	約70万円	約46万円(月額:3.83万円)	約91万円(月額:7.58万円)
第Ⅱ区分	約46.7万円	約30万円(月額:2.56万円)	約61万円(月額:5.06万円)
第Ⅲ区分	約23.3万円	約15万円(月額:1.28万円)	約30万円(月額:2.53万円)

表2.家計基準(目安)

世帯人数	想定する家族構成	家計支持者が給与所得の世帯 (年間の収入金額:万円)			家計支持者が給与所得以外の世帯 (年間の収入金額:万円)		
		第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分
2人	本人、親	229	332	402	131	197	251
3人	本人、親	289	391	457	172	241	295
4人	本人、親①、親②(無収入)、高校生	295	395	461	186	256	305
5人	本人、親①、親②(パート)、高校生、中学生	親①:321 親②:100	親①:395 親②:100	親①:461 親②:100	親①:207 親②:100	親①:256 親②:100	親①:309 親②:100

※日本学生支援機進学資金シミュレーターにておおよその確認が可能です

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html>



表3.学力基準

学力基準については、次のいずれかを満たす必要があります。

1.前年度までのGPA(平均成績)等が所属する学部学科・学年の1/2以上であること
2.修得した単位数の合計が標準単位数以上であり、かつ、将来、社会で自立し、活躍する目標をもって学修する意欲を有していることが、学習計画書により確認できること ※標準単位数＝卒業に必要な単位数(124単位)/修業年限(4年)×申請者の在学年数

ひとくちメモ

2019年10月1日現在

- 開 学：平成9年(1997年)4月
- 開 設：(社会福祉学研究科修士課程)平成21年(2009年)4月
(看護学研究科博士前期課程)平成24年(2012年)4月
(看護学研究科博士後期課程)平成29年(2017年)4月
(教育学研究科修士課程)平成30年(2018年)4月
(発達教育学部)平成26年(2014年)4月
(教育学部)平成30年(2018年)4月(発達教育学部を名称変更)
(保健教育学科)平成30年(2018年)4月
- 学部・学科：社会福祉学部・社会福祉学科
教育学部・児童教育学科
教育学部・保健教育学科
看護学部・看護学科
- 大学院：社会福祉学研究科修士課程
教育学研究科修士課程
看護学研究科博士前期課程
看護学研究科博士後期課程
- 学 長：加藤 明
- 教員数：専任(助手を含む)
社会福祉学部 19名
教育学部 27名
看護学部 32名
社会福祉学研究科(8名)
教育学研究科(12名)
看護学研究科(21名)
- 職員数：53名
- 学生数：社会福祉学部 418名
教育学部児童教育学科 286名
教育学部保健教育学科 154名
看護学部 370名
社会福祉学研究科修士課程 5名
看護学研究科博士前期課程 8名
看護学研究科博士後期課程 9名
教育学研究科修士課程 11名
- 教員一人あたりの学生数：社会福祉学部 22名
教育学部 16名
看護学部 11名
- 卒業生数(学部)：累計5,043名
- 卒業生数(大学院)：累計44名
- 社会福祉士合格者数：累計1,566名(※累計人数は全て既卒者込み)
- 精神保健福祉士合格者数：累計298名
- 看護師合格者数：累計836名
- 保健師合格者数：累計442名
- 助産師合格者数：累計4名

編集後記

2019年も残りわずかとなりました。会員の皆様にとって2019年はどのような1年だったでしょうか。来年はいよいよ東京オリンピックが開催されます。マラソン・競歩競技の開催地が札幌に変更になり、賛否両論がありました。マラソンと言えば、11月に赤穂市でも第9回赤穂シティマラソンが開催され、本学の陸上競技部の女子選手が5km女子の部で総合優勝を飾りました。陸上競技部だけでなく、サッカー部や男女バレーボール部、剣道部、硬式野球部、吹奏楽団の各指定強化クラブもそれぞれでしっかり頑張っていますので応援よろしくをお願いします。(H)

誌面にも掲載しておりますが、毎年開催している教育懇談会では、多くの会員の皆様にお越しいただきました。ありがたいことに速くは熊本や東京からも足を運んでいただいた会員の方もいらっしゃいました。大学として大事なご子女をお預かりしていることを再確認させていただくとともに、職員の立場からも会員の皆様のご期待にそえるような教育サービスを提供しなければと強く思いました。また、来年度から高等教育の修学支援新制度がスタートします。制度概要や手続きについてご不明な点やご質問がございましたら、大学までお気軽にお問い合わせください。(T)

社会福祉学部3年次生 就職支援プログラム

就職活動シーズンを控え、3年次生向け就職支援プログラムが本格スタートしました。

後期授業の開始に合わせ実施した4年次生との情報交換会では、就職活動を終えた先輩の体験談を聞くことができ、今だからこそすべきことを知る機会となりました。

また、学生とキャリア開発課職員との個別面談を実施。学生一人ひとりの現在の活動状況と進路希望を確認し、今後の就職支援プログラムを案内しました。

10月～11月にかけて学内での企業説明会、福祉説明会を実施。様々な事業所様に御来学頂き、事業内容や求める人材、採用試験に関することなど様々なお話をして頂きました。

学生の進路希望は福祉、公務員、企業…と様々ですが、キャリア開発課では進路実現に向け、徹底的にサポートしていきます。今後展開する様々な就職支援プログラムにぜひ参加してほしいと思います。

